

□議員名：中岡 英二

1 防災対策の自助の役割について

論点	防災ワークショップや防災セミナーでの防災教育はできているか。
回答	市民への防災教育については、出前講座や講師派遣・市民団体が主催する防災イベントへの参加を通じて実施している。

論点	各家庭への非常持ち出し袋の推進や、非常食等の備蓄推進のPR活動はできているのか。
回答	出前講座や防災イベント等を通じて、備蓄推進について最低7日分を確保していただくことや、ローリングストック方式などの備蓄方法等を紹介し備蓄品の確保について周知を進めている。

論点	各家庭での避難経路や避難場所の話し合いは重要だが、避難退去時のマニュアル等はあるのか。
回答	市では災害が発生する前に、個人用の避難退去時のマニュアルとなるマイ・タイムラインの作成を啓発している。

2 防災対策の共助の役割

論点	市民に地域での防災訓練の参加を促すため、どのような啓発活動をしているのか。
回答	実施主体である地元の自主防災組織や地域交流センター、防災士等関係者によって回覧板やチラシなどを使用して周知を行っている。市としてその活動を支援する補助金制度を設けている。

論点	防災リーダーや自主防災組織の育成をし、RMOを中心とした各地域への防災体制の強化をどう考えているのか。
回答	今後はRMOを中心とした活動に代わっていく事になり、地域の活動がさらに進むことに期待している。市としても出前講座の実施や地区の防災訓練への協力を行っていく。

3 防災対策の公助の役割

論点	避難所の運営のため、生活必需品・水・食料・医薬品・簡易トイレ等の在庫は十分確保されているのか。
----	---

回答	山陽小野田市地域防災計画や山陽小野田市業務継続計画・山陽小野田市避難所備蓄計画に基づき計画的に備蓄を行っている。
----	--

論点	発災時後に自治体としてボランティア活動を調整し、市民や団体が協力して支援活動を行う体制づくりはできているか。
回答	市民や市民団体の協力で実施するボランティア活動は、市の地域防災計画や災害ボランティアセンターマニュアルによって、担当課を中心に社会福祉協議会と関係団体で協議して行う。